

大 淀 町

# 社協だより

第1号  
平成23年  
7月発行

えがおで介護  
こころのネットワーク  
あんしんサポート



2ページ目掲載

## 東日本大震災の被災地へ



発行所／社会福祉法人 大淀町社会福祉協議会

〒638-0821 大淀町下湊1223番地 TEL 0747-52-1941

この社協だよりは、共同募金の配分金と善意銀行の助成金により作成しております

# 宮城県気仙沼市での支援活動

東日本大震災で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

3月11日に発生した東日本大震災は、日本の観測史上最大で東北地方に壊滅的な被害をもたらしました。

国内外から被災地に対し、支援の輪が広がり、現在も復興支援への取り組みが継続されています。

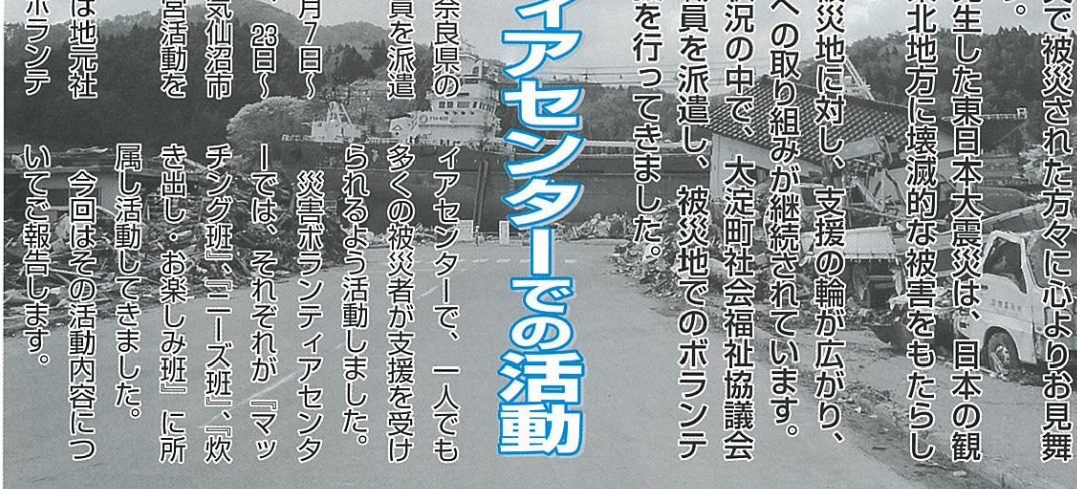
このような状況の中で、大淀町社会福祉協議会からも現地に職員を派遣し、被災地でのボランティア活動の支援を行ってきました。

## ボランティアセンターでの活動

近畿各府県及び奈良県のボランティアセンターで、一人でも社員は宮城県に職員を派遣しています。

当社協からも4月7日、14日、15日、22日、23日、30日の3回わたり気仙沼市に職員を派遣し運営活動を支援しました。

派遣された職員は地元社協が運営する災害ボランティアセンターで活動しています。



### 『ニーズ班』

中川 義孝

私は、ニーズ班として、住民の方からの連絡を受けて現地向かい、活動内容の確認とボランティアの方が安全に活動出来るかを直接確認するのが主な役割でした。

ニーズ班には現地社協の職員以外にも地元の方々がボランティアとして活躍しておられました。

実際の被災地は状況がひどく、現地の方が地図を見ても現在地がわかりにくく、大きな工場などを目標に何とか確認場所へ辿り着く状況でした。そんな中で、心に残るエピソードとして、津波で助かった少女がその後の地震で、亡



### 『マッチング班』

宮本 賢太郎

被災された方からの支援ニーズと災害ボランティアセンターに集まったボランティアを調整してつなぐのがマッチング班の役割です。具体的には、活動に必要なボランティアを募り、オリエンテーション及び必要な資材の調整を行ったあと、ボランティアを車で現地に送迎します。

元々、心臓に持病を持っていたらしいのですが、幼い命が失われた話は、私の胸を締め付けるものでした。

また、現地のケアマネージャーの方が、ご自身もご主人を震災で亡くされたにもかかわらず、夜遅くから避難所を廻り担当の利用者の様子を見に行くということもありました。

その中で私が救われたのは、現地の皆さんが明るく前向きであったことでした。皆さん笑顔で感謝の言葉を綴って下さいました。



また震災から一カ月ということもあり、支援ニーズは、「自宅内の泥出しをしてほしい」との要望が多く、毎日約二百名のボランティアが被災者宅で活動にあたりました。

気仙沼市では、津波で魚の加工工場が流失し、沿岸部では火災も発生しています。そのため、活動前には粉塵と悪臭対策として、現場でのマスク着用と釘の踏み抜きには特に注意を呼びかけました。

今回、特に印象に残っていることは、「ドコを見ずに人を見てください」という言葉でした。災害ボランティア活動では、被災者の自宅に上がり込んでの作業となります。私たちはドコに見えても、被災者にとっては、泥の下に震災前の思い出がいっぱい詰まっています。被災者の気持ちに寄り添って、「コミュニケーションをとって、被災者のペースに合わせて作業を行うことが一番重要だと感じています。



## 『炊き出し お楽しみ班』

田端 鈴子

炊き出しによる食事やおやつなどを仙台市内の避難所に確実に届けたり、音楽演奏など楽しんで頂ける行事を提供するため、地元のボランティアや社協職員、他府県自治体関係者、国際連盟、そして私たち近畿の社協職員など、様々な人達と協力し活動しました。

日に日に移りゆく避難所の

方々の希望を最優先し、ボランティアの日程や内容と合わせます。被災当初の炊き出しは、「何でもいので食べ物欲しい」と希望されたそうです。

1か月が過ぎ、「子供たちにお肉を」、「カレーはもういいので新鮮なお魚がよい」、「炊き出しは栄養が偏るので栄養を考えたメニューがいい」等の希望があり、その時々思いを配り、避難所に偏りがなく、行きにくい場所にごそ食事が届くようにと調整しました。

被災された方は、自宅の瓦礫撤去など忙しくされており、避難所での不自由な生活で肉体的な疲労も大きくなっていました。お楽しみ行事については、夜間帯のリラックスできるマッサージなどは非常に喜んでいただけました。

状況が日々変化していき、皆さんの気持ちや感じ方も少しずつ変わってくる中で、少しでも安らぎを感じていただける時間を提供できるようにお手伝いをさせていただいたことに感謝しております。

## 復興への歩み 明るく前向きで

被災地で社協職員がどのような活動を行っていたか理解して頂けたか？社協は災害が起きた時に、ボランティア活動の拠点となり、被災者に必要な支援を迅速かつ継続的に行うことが重要な役割となっています。

被災地では、現在もボランティア活動が継続されており、一歩ずつ復興への歩みを進めています。被災者の方々が落ち着いたら生活を取り戻すにはまだまだ支援が必要な状況です。

活動報告にもあったように、現地の方々は前向きに復興に向かって歩みを進められています。

明るく前向きに、震災と向き合うことで被災地は力強く復興を遂げるでしょう。

大淀町では6月17日～20日まで「大淀町被災地支援ボランティアバス」を運行し、町職員と社協職員の有志が、気仙沼市内でボランティア活動を行いました。また、第2回目の7月15日～18日には、町内から応募されたボランティアの方々が被災地で活動される予定です。

大淀町社会福祉協議会は、一日も早い被災地の復興を願っています。これからも出来る限り被災地の復興を支援したいと考えております。

被災地の復興には、全国からの協力が不可欠です。今後とも、皆様の温かいご支援ご協力を賜りますようお願い致します。

# ほつかつ日和

～頼れる地域のサポーター～

●骨折しやすい 患部は？  
 高齢者に多い骨折の患部として、脚の付け根が折れる「大腿骨近位部骨折」があります。  
 この骨折の発生率は、55歳ぐらいから増加し、5歳刻みで見ると、80歳と84歳が最も多くなっています。  
 原因は、つまずくなど「立った高さからの転倒」が7割と高くなっています。

●転倒しやすい 場所は？  
 では、どんな場所で転倒しやすいのでしょうか。「大腿骨近位部骨折」の場合、室内が7割と高くなっています。例えば、部屋と部屋の敷居や段差があり、日頃気にしていないところも、注意しないといけない場所です。

●骨折の予防に ついて  
 骨折を防ぐには、主な原因となる骨粗鬆症の予防や治療のほか、筋力やバランス感覚を養う運動療法、階段やトイレに手すりを付けるなどの対策も有効です。  
 骨粗鬆症予防の三原則は、「食事」・「運動」・「日

●地域包括支援センターでは  
 「いきいきふれあい教室」や「出前講座」などでもお話ししますので、お気軽にご相談下さい。

今回は、「骨折」についてお伝えします。  
 高齢者の骨折は、寝たきりの原因になります。

また、布団や電気の配線などもつまづく原因となることが多いです。  
 光浴です。食事は、骨を強くする栄養の「カルシウム」・「マグネシウム」

また、布団や電気の配線などもつまづく原因となることが多いです。  
 光浴です。食事は、骨を強くする栄養の「カルシウム」・「マグネシウム」

また、布団や電気の配線などもつまづく原因となることが多いです。  
 光浴です。食事は、骨を強くする栄養の「カルシウム」・「マグネシウム」

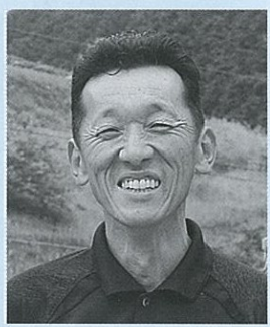


●母子就労支援事業  
 母子家庭や母子生活自立支援施設に入所されている母親が対象となります。  
 就労への支援のために、看護師や介護福祉士の資格取得に向けて職場実習支援を行っています。  
 実習コースについては参加者と面接の上、詳細を検討します。興味のある方はお問い合わせください。

問合せ先 介護事業課まで



## たくみ 匠 ～地域で輝く元氣人～



福西 永祐さん (岩壺)

今回は福西さんです。桜ヶ丘小学校のPTA本部役員を務めています。昨年環境整備の一環として、校庭の花壇作りをされおり、花壇作りのアイデアを出したり、事前準備などの活動をされています。今年7/24(日)に奉仕作業と併せて花壇作りを行う予定です。

### 匠のひと言

自分も花が好きなので、子ども達も花に癒されて欲しいです。また、木製の花壇なので、木のぬくもりを感じてもらいたいです。  
 7/24は親子でできる作業もたくさん用意しています。もの作りを通して親子や保護者同士がふれあえる楽しい奉仕作業にしたいと思っていますので、一人でも多くの方の参加をお待ちしています。

なかで  
**中出司法書士事務所**  
 各種登記のことなら(相談無料)  
 大淀町土田二八四一九 ライフ・コーナン横  
 JA西部支店前  
 ☎〇七四七(五二)六五七七